

平成30年度研究開発実施計画書(修正版)

1 研究開発課題

文化や価値観などの異なる人々とよりよい人間関係を構築できる資質・能力を育成するための、初等中等教育段階におけるグローバル化に対応した教育環境づくりを柱とした教育課程の研究開発

2 研究の概要

自国や地域の文化や伝統への理解を深めるとともに、異なる習慣や文化をもった人々と共に生きていくために(多文化共生)、「人間尊重の精神を基調とする国際感覚」を養い、「国際社会に通用するコミュニケーション能力」の向上を図る教科として、『グローブ(Globe)』を創設し、国際教育における初等中等教育の一体的な教育課程の在り方を探る。

具体的には、①新教科『グローブ(Globe)』の創設及び指導内容、指導方法、評価方法の在り方、②幼・小・中・高における国際教育や英語教育(コミュニケーション能力)の接続の在り方、③外国語に慣れ親しみ、異文化理解を深めるための地域人材(13か国のJETスタッフ、10か国の日本語学校留学生)の有効的な活用の在り方、以上3点の研究を行う。

3 研究の目的と仮説等

(1) 研究仮説

① 課題解決のための手段

ア 国際教育を中核とした新教科『グローブ(Globe)』を創設し、指導内容、指導方法、評価方法を体系的に構築することで、自国の歴史や文化、伝統に対する理解を深めるとともに、異文化を理解し、異なる文化や習慣をもつ人々と共に生きていく(多文化共生)ための資質・能力を育む。

イ コミュニケーション能力の育成として、幼稚園5歳児におけるチャンツやゲームの導入、小学校低学年における外国語活動から中学年・高学年における英語科への滑らかな接続、また、中学校第1学年の外国語科のスタートカリキュラムの再編成等により、幼・小・中・高の系統性を図る。

ウ 地域における外国人(JETプログラムで招聘している15名の外国人、日本語学校の生徒、専門学校の日本語学科の生徒)との交流等により、相互理解や相互交流を基本とした活動を推進することで、よりよい人間関係の構築に係る資質・能力の育成を図る。

エ 児童・生徒の意識調査や5つの領域での評価、地域在住外国人の意識調査、地域住民等へのアンケート調査を実施することで、『グローブ(Globe)』の成果と課題を明らかにするとともに、指導へ生かす。

また、経年変化を分析することで、校種間の接続におけるカリキュラム編成の見直しに資するデータとする。

② 期待する具体的成果

ア 自国や他国の文化に触れる活動を通して、それぞれの国における文化や習慣を理解することで、多様な価値観を尊重し合う態度(多文化共生)が育成される。

- イ 外国人との交流活動を通して、日本人として、また、個人としての自分自身を理解する（見つめ直す）ことで、自己理解が図られる。
- ウ 校種間の英語教育を系統的に推進することで、英語に「慣れ親しむ」ことから英語やジェスチャーを使って「自らの考えや意見を自ら発信しようとする」ことができるコミュニケーション能力の向上が図られる。
- エ 新学習指導要領における、これからの英語教育のカリキュラム編成に資する実践的資料となる。

(2) 必要となる教育課程の特例

① 創設教科

『グローブ(Globe)』 授業時数

小学校 1・2 学年 年間 35 時間、 小学校 3・4 学年 年間 70 時間
 小学校 5・6 学年 年間 105 時間、 中学校 1～3 学年 年間 160 時間
 高等学校 1・2 学年 年間 150 時間、 高等学校 3 学年 年間 100 時間

② 既存教科等の授業時数変更に伴う対応案

小学校 1・2 年 生活科から 15 時間、学校裁量の時間から 20 時間
 小学校 3・4 年 総合的な学習の時間から 35 時間、
 外国語活動から 35 時間
 小学校 5・6 年 総合的な学習の時間から 35 時間、
 外国語から 70 時間
 中学校 1～3 年 総合的な学習の時間から 20 時間、
 外国語から 140 時間
 高等学校 1・2 年 特別活動から 10 時間、外国語から 140 時間
 高等学校 3 年 特別活動から 7 時間、外国語から 93 時間

(3) 研究成果の評価方法

① 児童・生徒への『グローブ(Globe)』の活動に関する評価

「ローカル」「グローバル」：授業者による授業記録、授業前後のアンケート、質問紙調査及び自己評価等

「コミュニケーション」：学習状況調査（中学校・高等学校における入学時調査）、英語検定の実施による取得率比較、質問紙評価及び自己評価等

② 外国人、関係機関、教員への『グローブ(Globe)』の学校間の系統性を確認する質問紙調査、実践に対する調査及び自己評価

③ 運営指導委員会や地域住民、保護者等による国際教育や英語教育（コミュニケーション能力等）に関する外部評価

④ 公開授業及び研究協議会（第三・四年次）における、参加者や外部講師等からの外部評価

4 研究計画等

(1) 前年度までの研究開発の概要

① 次の3要素で、グローバル化に対応する資質・能力を育むことを目的とする

小学校・中学校におけるカリキュラムを編成した。

「ローカル」要素：

自国や地域の文化や伝統に根ざした自己の確立を図る。

(自己理解、郷土理解)

「グローバル」要素：

多様な異文化を受容し、共生することのできる態度を育成する。

(異文化理解、問題解決、相互依存、多文化共生)

「コミュニケーション」要素：

文化の異なる人々との英語をツールとしたコミュニケーション能力を育成する。(コミュニケーション)

- ② 新教科『グローブ(Globe)』の系統的(幼・小・中・高)な指導方法を検討するとともに小・中・高の関連及び児童生徒の実態に即したCAN-DOリスト等の資料や教材を作成した。
- ③ 新教科『グローブ(Globe)』の授業における東川町在住のALT、国際交流員(CIR)、スポーツ国際交流員(SEA)の効果的な活用場面等を検討し、授業実践を通して検証した。また、日本語学校の留学生の活用もカリキュラムに位置付けた。
- ④ 中学校及び高等学校の英語教員の授業等を小学校において実施した。(乗り入れ授業)
- ⑤ 各評価や調査を分析することで、校種間の接続におけるカリキュラム編成の見直しに資するデータを得た。

(2) 当該年度の教育課程の内容

- ① 『グローブ(Globe)』カリキュラムに基づく実践を行い、他教科等との関連を明確にした年間指導計画の改善を行う。
 - ② 『グローブ(Globe)』の系統的な指導方法及び評価をさらに検討する。
 - ③ 『グローブ(Globe)』の授業において、東川町在住のALT、国際交流員(CIR)スポーツ国際交流員(SEA)、留学生をゲストティーチャーとして全校種において授業で活用する。
 - ④ 中学校の英語教員による各小学校への乗り入れ授業を実施する。また、幼稚園と小学校第1・5学年との授業交流を実施する。
 - ⑤ 各調査から、『グローブ(Globe)』の成果と課題を明らかにするとともに、指導へ生かす。第1年次との経年変化を分析し、校種間の接続におけるカリキュラム編成の見直しに資するデータを得る。
- (3) 全課程の修了認定の要件
※【別添3】別紙1-⑥
- (4) 年次研究計画

<p>第1年次</p>	<p>『グローブ(Globe)』推進のための組織づくりとカリキュラム作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 研究開発学校指定の4年間を見通した研究の骨子の作成 <ul style="list-style-type: none"> ・研究組織（グローブ推進チーム、運営指導委員会）の設置 ・各学校、関係機関における研究の方向性（創設の目的、仮説等）の共通理解及び連携の明確化 ・研究計画（内容、方法、評価）の作成 ○ 新教科『グローブ(Globe)』のカリキュラム編成 <ul style="list-style-type: none"> ・各学校種間における接続を意識したカリキュラムの作成 ・『グローブ(Globe)』における3領域構成の内容検討 <ul style="list-style-type: none"> 「ローカル」要素： <ul style="list-style-type: none"> 自国や地域の文化や伝統に根差した自己の確立 「グローバル」要素： <ul style="list-style-type: none"> 多様な異文化を受容し、共生することのできる態度の育成 「コミュニケーション」要素： <ul style="list-style-type: none"> 文化の異なる人々との英語をツールとしたコミュニケーション能力の育成 ・コミュニケーション要素（外国語活動、英語科）の系統的（幼・小・中・高）な指導方法の検討 ・小・中・高の関連及び児童・生徒の実態に即した3要素一体のCAN-DOリストの作成・実施と評価及び指導資料、教材の作成 ・外国人の効果的な活用場面等の検討 ○ 評価方法の検討 <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒、学校、学校関係機関、保護者地域住民等による評価の在り方の検討 ・英語能力調査（中学校・高等学校：英検IBA）の実施 ・評価の観点、評価方法の検討 ・グローブ推進チームと運営指導委員会による評価や指導をもとにした第1年次の成果と課題のまとめ及び第2年次以降の計画の修正 ○ 保護者、地域への啓発・周知
	<p>新教育課程の先行実施及び『グローブ(Globe)』カリキュラムの完成</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 『グローブ(Globe)』カリキュラムの実施 <ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに基づく実践と課題の明確化、改善 ・CAN-DOリストの見直し ・複式校におけるカリキュラムの研究（～4年次まで） ・評価の観点、評価規準の見直し
<p>第2年次</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーション要素における系統的な指導の実施 ・指導資料、教材の検証と改善、改訂 ・東川町在住の外国人（ALT、CIR、SEA等）の積極的活用 ○ 実践研究発表会開催に向けての準備 <ul style="list-style-type: none"> ・第3年次・第4年次における研究会開催の計画、準備 ○ 評価の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・英語能力調査（小学校：GTECJunior、中学校・高等学校：英検IBA）、自己評価、外部評価、英検各級取得率比較、質問紙調査による評価 ・第2年次の成果と課題のまとめ及び第3年次以降の計画の修正

<p>第3年次</p>	<p>『グローブ(Globe)』カリキュラムの実施・評価・改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ カリキュラムの実施・評価・改善 <ul style="list-style-type: none"> ・ 3要素における、幼・小と中・高の滑らかな接続の在り方の研究 ・ コミュニケーション要素における、「読むこと」、「書くこと」の学習内容の小・中連携による系統的な指導の実施及び5つの領域の言語活動での評価 ○ 実践研究発表会（プレ研）の開催 <ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校、中学校、高等学校における授業公開 ・ 幼稚園における外国語活動の公開 ○ 評価の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・ 英語能力調査（小学校：GTECJunior、中学校・高等学校：英検IBA）、自己評価、外部評価、英語検定各級取得率比較、質問紙調査による評価 ・ 第3年次の成果と課題のまとめ及び第4年次の計画作成 ○ 指導資料の作成
<p>第4年次</p>	<p>新教育課程の完全実施及び『グローブ(Globe)』研究の成果と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ カリキュラムの実施・評価・改善 <ul style="list-style-type: none"> ・ 3領域における、幼・小・中・高の有機的な連携についてのまとめ ・ コミュニケーション領域における、「読むこと」、「書くこと」の学習内容の小・中連携による系統的な指導の実施及び5つの領域の言語活動での評価 ・ 他地域での『グローブ(Globe)』導入及び普及についての検討 ○ 研究実践発表会の開催 <ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校、中学校、高等学校における授業公開（3要素） ・ 幼稚園における国際教育（外国語活動）の公開 ○ 英語を用いてコミュニケーションを図る体験の場の設定 ○ 評価の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・ 英語能力調査（小学校：GTECJunior、中学校・高等学校：英検IBA）、自己評価、外部評価、質問紙調査による評価 ・ 児童生徒、教員、関係機関、地域等の意識調査及び分析 ・ 成果と課題のまとめ及び一般化のための提案（研究報告書の作成） ○ 研究開発学校指定後における『グローブ(Globe)』の方向性の検討

(5) 年次評価計画

<p>第1年次</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 児童・生徒に係る『グローブ(Globe)』実施の評価 <ul style="list-style-type: none"> ・児童・生徒の授業後の振り返りシート、意識（質問紙）調査、パフォーマンス（行動観察）等による実態の把握及び分析 ・英語能力調査（小学校：GTECJunior、中学校・高等学校：英検IBA）の実施 ○ 研究推進全体に係る評価 <ul style="list-style-type: none"> ・新教科創設にかかる運営指導委員会の指導・助言（8月） ・関係機関、JETスタッフ及び保護者によるアンケート調査の実施、結果の分析（11月） ・カリキュラム編成にかかる運営指導委員会の評価・指導・助言（1月） ○ 教員による意識調査 <ul style="list-style-type: none"> ・幼・小・中・高の教員による意識（質問紙）調査の実施（11月）
<p>第2年次</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 児童・生徒に係る『グローブ(Globe)』実施の評価 <ul style="list-style-type: none"> ・前年度の各調査における継続的な実態の把握及び分析 ・英語能力調査（小学校：GTECJunior、中学校・高等学校：英検IBA）実施 ○ 研究推進全体に係る評価 <ul style="list-style-type: none"> ・関係機関、JETスタッフ及び保護者によるアンケート調査の実施、結果の分析及び経年比較（11月） ・運営指導委員会の評価・指導・助言（1月） ○ 教員による意識調査 <ul style="list-style-type: none"> ・前年度における意識（質問紙）調査の継続的な実施（11月）
<p>第3年次</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 前年度の各評価（児童・生徒、研究推進全体、教員）の継続的な実施及び分析 <ul style="list-style-type: none"> ・前年度の各調査における継続的な実態の把握及び分析 ・英語能力調査（小学校：GTECJunior、中学校・高等学校：英検IBA）の実施 ○ 公開研究会（プレ研）実施による検証 <ul style="list-style-type: none"> ・新教育課程を先行的に実施し、公開研究会を開催することで外部評価により成果と課題を明らかにし、次年度への改善につなげる。
<p>第4年次</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 前年度の各評価（児童生徒、研究推進全体、教員）の継続的な実施、分析及び検証 <ul style="list-style-type: none"> ・前年度の各調査における継続的な実態の把握及び分析 ・英語能力調査（小学校：GTECJunior、中学校・高等学校：英検IBA）の実施 ・各評価の4年間の集積データのまとめ ・研究報告にかかる運営指導委員会の評価・指導・助言 ○ 研究実践発表会実施による検証 <ul style="list-style-type: none"> ・研究実践発表会を開催し、本研究4年間の成果と課題を明らかにしまとめを行う。

5 研究組織

(1) 研究組織の概要

運営指導委員会（大学、道教委、町教委等）

研究推進連絡協議会（町教委、研究開発学校7校の管理職、研究担当代表者等）

研究推進委員会（研究担当者、英語科教員、ALT、CIR等）

外部評価委員会（英語教育有識者、地域識見者等）

（2）研究担当者（研究主任の氏名には○印を付すること）

職名	氏名	担当学年・担当教科
小学校 教諭	松田 陽子	特別支援学級 全教科（英語）
小学校 教諭	吉野 恵子	フリー 全教科（英語）
小学校 教諭	森谷 加代子	特別支援学級 全教科
小学校 教諭	小関 麻衣子	フリー 全教科（英語）
小学校 教諭	○神野 伸二	フリー 全教科（国際理解）
小学校 教諭	木村 智美	
中学校 教諭	山森 考将	特別支援学級 全教科
中学校 教諭	上野 愛里	第2学年 英語
高等学校 教諭	遠藤 祥悦	特別支援フリー
高等学校 教諭	千藤 葉雄	英語
幼稚園 教諭	荻原 里沙	英語
東川町教育委員会	堀内 彩奈	教務担当 JETコーディネーター

（3）運営指導委員会

① 組織

氏名	所属	職名	備考（専門分野等）
石塚 博規	北海道教育大学	教授	外国語教育
金 玗辰	北海道教育大学	准教授	国際教育
高瀬 博子	聖心女子学院	講師	英語教育
新居 雅人	北海道教育委員会	義務教育課主査	英語担当
遠藤 直俊	北海道教育委員会	上川教育局義務班主査	英語担当
林 万里	東川町教育委員会	教育長	
杉山 昌次	東川町教育委員会	学校教育課長	
本多 大樹	東川町教育委員会	生涯学習課長	
堀内 彩奈	東川町教育委員会	コーディネーター	小・中学校英語教育
ゾエ・アスコリ	東川町教育委員会	JET-CIR	国際交流
ナタリー・エドモンソン	東川町教育委員会	JET-ALT	英語教育

② 活動計画

運営指導委員会	8月、1月、3月
研究推進連絡協議会	4月、8月、2月
研究推進委員会	5月～3月（毎週木曜日）
外部評価委員会	9月、2月

①東川小学校 教育課程表（平成30年度）

	各教科の授業時数										道徳	外国語活動・外国語	総合的な学習の時間	特別活動	グローバル（新設教科）	総授業時数
	国語	社会	算数	理科	生活	音楽	図画工作	家庭	体育							
第1学年	30 6		13 6		87 (-1 5)	68	68		10 2	34			34	35 (+3 5)	87 0	
第2学年	31 5		17 5		90 (-1 5)	70	70		10 5	35			35	35 (+3 5)	93 0	
第3学年	24 5	70	17 5	90		60	60		10 5	35	0 (-3 5)	35 (-3 5)	35	70 (+7 0)	98 0 (+3 5)	
第4学年	24 5	90	17 5	10 5		60	60		10 5	35	0 (-3 5)	35 (-3 5)	35	70 (+7 0)	10 15 (+3 5)	
第5学年	17 5	10 0	17 5	10 5		50	50	60	90	35	0 (-7 0)	35 (-3 5)	35	10 5 (+10 5)	10 15 (+3 5)	
第6学年	17 5	10 5	17 5	10 5		50	50	55	90	35	0 (-7 0)	35 (-3 5)	35	10 5 (+10 5)	10 15 (+3 5)	
計	14 61	36 5	10 11	40 5	17 7 (-3 0)	35 8	35 8	35 8	59 7	20 9	0 (-21 0)	14 0 (-14 0)	20 9	42 0 (+42 0)	58 25 (+18 0)	

※ 第1・2学年については、学校裁量の時間より20時間を『グローバル』

(Globe)』（新教科）に充てるため、組み替えた時数の合計と『グローブ
(Globe)』の時数は一致しない。

東川②第一③第二④第三小学校 教育課程表（平成30年度）

	各教科の授業時数									道徳	外国語活動	総合的な学習の時間	特別活動	新設教科	総授業時数
	国語	社会	算数	理科	生活	音楽	図画工作	家庭	体育						
第1学年	30 6		13 6		87 (-15)	68	68		10 2	34			34	35 (+35)	870 (+20)
第2学年	31 5		17 5		90 (-15)	70	70		10 5	35			35	35 (+35)	930 (+20)
第3学年	24 5	90	17 5	10 5		60	60		10 5	35	0 (-35)	35 (-35)	35	70 (+70)	1015 (+35)
第4学年	24 5	90	17 5	10 5		60	60		10 5	35	0 (-35)	35 (-35)	35	70 (+70)	1015 (+35)
第5学年	17 5	10 5	17 5	10 5		50	50	60	90	35	0 (-70)	35 (-35)	35	105 (+105)	1020 (+35)
第6学年	17 5	10 5	17 5	10 5		50	50	60 (+5)	90	35	0 (-70)	35 (-35)	35	105 (+105)	1020 (+35)
計	146 1	390	101 1	420	177 (-30)	358	358	120	597	209	0 (-210)	140 (-140)	209	420 (+420)	5870 (+180)

※第1・2学年については、学校裁量の時間より20時間を新教科『グローブ(Globe)』に充てるため、組み替えた時数の合計と『グローブ(Globe)』の合計は一致しない。

※第3・4学年及び第5・6学年は、複式学級で編成していることから、標準時数

を上回って教育課程を編成している。(第3・5・6学年)

⑤東川中学校 教育課程表（平成30年度）

	各教科の授業時数									道徳	総合的な学習の時間	特別活動	新設教科	総授業時数
	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保健体育	技術・家庭	外国語					
第1学年	140	105	140	105	45	45	105	70	0 (-140)	35	30 (-20)	35	160 (+160)	1015
第2学年	140	105	105	140	35	35	105	70	0 (-140)	35	50 (-20)	35	160 (+160)	1015
第3学年	105	140	140	140	35	35	105	35	0 (-140)	35	50 (-20)	35	160 (+160)	1015
計	385	350	385	385	115	115	315	175	0 (-420)	105	130 (-60)	105	480 (+480)	3045

⑥東川高等学校 教育課程表（平成30年度）

	各教科の授業時数										グローブ	総学合習的のな時間	特別活動	総授業時数
	国語	地歴公民	数学	理科	外国語	芸術	家庭	体育	情報	商業				
第1学年	140	105	140	105	0 (-140)	70	70	140		35	150	70	160 (-10)	1185 (0)
第2学年	105	105	140	105	0 (-140)	70	70	140		70	150	70	160 (-10)	1185 (0)
第3学年	105	140	105	140	0 (-93)	70		70	70		100	35	85 (-7)	920 (-10)

第3学年次 選択 2単位 3単位 を各 1つ 選択		時事 問題 研究 70	数 学 B 10 5	生 物 研 究 70	英 語 表 現 I 10 5 英 語 会 話 70		子 ど も の 発 達 と 保 育 10 5	ス ポ ー ツ A 70		電 卓 基 礎 計 算 10 5				175 (2単 位・3単 位選択 の合 計)
計	350	350	385	350	0 (-37 3)	210	140	35 0	70	10 5	410	175	430 (-27)	3465 (-10)
選択科 目を履 修した 場合		420	490	420	175		245	42 0		21 0				

※第1学年～3学年の外国語の授業時数を「グローブ (Globe)」に充てる。また、特別活動においても国際交流・国際理解に係る行事等を計画する。

【別添3】－別紙2

学校等の概要①

1 学校名、校長名

東川町立東川小学校 (ヒガシカワチョウリツヒガシカワショウガッコウ)
校長 前田 昭彦

2 所在地、電話番号、FAX番号

北海道上川郡東川町西4号北8番地 (Tel 0166-82-2425 Fax 0166-82-4711)

3 課程・学科・学年別幼児・児童・生徒数、学級数

(小学校の場合)

第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年	計
------	------	------	------	------	------	---

児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
55	2	57	2	60	2	56	2	45	2	58	2	331	12
情1		知1 言1 情2		知1 病1 情1		知1 情2		知3 情2		情1		知6 病1 言1 情9	知1 病1 言1 情2

(中学校の場合)

第1学年		第2学年		第3学年		計	
生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数

(高等学校の場合)

課程	学科	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		計	
		生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
全日制	〇〇科										
	××科										
	計										
定時制	△△科										
計											

4 教職員数

校長	副校長	教頭	主幹教諭	指導教諭	教諭	助教諭	養護教諭	養護助教諭	栄養教諭	講師
1		1	1		24		1		1	
A L T	スクール カウンセラー	事務 職員	司書	計						
1		2	2	34						

【別添3】－別紙2

学校等の概要②

1 学校名、校長名

東川町立東川第一小学校（ヒガシカワチョウリツヒガシカワダイイチショウガッコウ）

校長 岡 本 美 雪

2 所在地、電話番号、FAX番号

北海道上川郡東川町西10号北24番地 (TEL 0166-82-2751 FAX 0166-82-5143)

3 課程・学科・学年別幼児・児童・生徒数、学級数

(小学校の場合)

第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年		計	
児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
4	1	6	1	5		7	複式1	6		3	複式1	31	4
		情1				情1		情1				情3	情1

(中学校の場合)

第1学年		第2学年		第3学年		計	
生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数

(高等学校の場合)

課程	学科	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		計	
		生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
全日制	○○科										
	××科										
	計										
定時制	△△科										
計											

4 教職員数

校長	副校長	教頭	主幹教諭	指導教諭	教諭	助教諭	養護教諭	養護助教諭	栄養教諭	講師
1		1			6			1		
A L T	スクールカウンセラー	事務職員	司書	計						
		1		10						

学校等の概要③

1 学校名、校長名

東川町立東川第二小学校（ヒガシカワチョウリツヒガシカワダイ2ショウガッコウ）

校長 大垣 秀彦

2 所在地、電話番号、FAX番号

北海道上川郡東川町西4号北32番地（Tel 0166-82-3019 Fax 0166-82-5170）

3 課程・学科・学年別幼児・児童・生徒数、学級数

（小学校の場合）

第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年		計	
児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
7	1	8	1	9		7	複式1	9		4	複式1	44	4
情1		情1		情1				知1 情1				知1 情4	

（中学校の場合）

第1学年		第2学年		第3学年		計	
生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数

（高等学校の場合）

課程	学科	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		計	
		生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
全日 制	〇〇科										
	××科										
	計										
定時 制	△△科										
計											

4 教職員数

全日 制	〇〇科											
	××科											
	計											
定時 制	△△科											
計												

4 教職員数

校長	副校長	教頭	主幹 教諭	指導 教諭	教諭	助教 諭	養護 教諭	養護 助教 諭	栄養 教諭	講師
1		1			5		1			1
A L T	スケー ル カウ ンセ ラー	事務 職員	司書	計						
		1	1	11						

【別添3】－別紙2

学校等の概要⑤

1 学校名、校長名

東川町立東川中学校（ヒガシカワチョウリツヒガシカワチュウガッコウ）
校長 尾 崎 朋 子

2 所在地、電話番号、FAX番号

北海道上川郡東川町北町1丁目5番1号（TEL0166-82-2428 Fax0166-82-2348）

3 課程・学科・学年別幼児・児童・生徒数、学級数

（小学校の場合）

第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年		計	
児 童 数	学 級 数	児 童 数	学 級 数	児 童 数	学 級 数	児 童 数	学 級 数	児 童 数	学 級 数	児 童 数	学 級 数	児 童 数	学 級 数

（中学校の場合）

第1学年		第2学年		第3学年		計	
生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
78	3	74	3	72	3	224	3

(中学校の場合)

第1学年		第2学年		第3学年		計	
生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数

(高等学校の場合)

課程	学科	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		計	
		生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
全日制	普通科	80	2	75	2	79	2			234	6
計		80	2	75	2	79	2			234	6

4 教職員数

校長	副校長	教頭	主幹教諭	指導教諭	教諭	助教諭	養護教諭	養護助教諭	栄養教諭	講師
1		1			16		1			1
A L T	スクールカウンセラー	事務職員	司書	計						
2	1	4		27						

【別添3】一別紙2

学校等の概要⑦

1 学校名、校長名

東川町立東川幼稚園 (ヒガシカワチョウリツヒガシカワヨウチエン)
園長 伊藤和代

2 所在地、電話番号、FAX番号

北海道上川郡東川町西4号北8番地 (Tel 0166-82-3400 Fax 0166-82-4660)

3 課程・学科・学年別幼児・児童・生徒数、学級数

5歳児	4歳児	3歳児	2歳児	1歳児	0歳児	計
13	13	7				78人
9	11	8				8学級
		10				
		7				

4 教職員数

園長	副園長	事務長	室長	主任	教務	担任	特別支援教育支援員	事務職員	看護師	栄養士
1	1			7	1	7	1	1	2	2
調理員	公務補			計			※主任兼務			
4	1			27						